

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4292400027		
法人名	社会福祉法人真和会		
事業所名	グループホーム あしたば		
所在地	〒859-1213 雲仙市瑞穂町伊福甲675・669		
自己評価作成日	平成 30年 11月 20日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 2月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気で落ち着いた生活を送っていただけるように勤めています。又、地域の行事に参加させて頂いたりして地域との交流にも力を入れています。食時には季節の食材を使用し提供しています。

法人内の関連施設との連携の下総合的なサービスを提供することにより安心して利用して頂けると思っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有明海を眼下に臨む雲仙・多良岳を一望できる高台に位置する当ホームは、自然豊かで四季折々の移ろいを感じられ、主要道路からも近い環境となっている。ホームは理念である「地域の中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」の実現に向けて、運営する法人の多種多様な事業所とともに安定した支援が展開されている。ホームは家庭的な雰囲気を保ちつつ入居者一人ひとりの尊厳を遵守した支援に取り組んでおり、地域との交流を深めるとともに各種委員会による職員の介護技術向上に日々取り組んでいる。ホーム廊下や共用スペースには季節毎の行事やバスハイクでの入居者の様子、園児や地域住民との交流を収めた写真が掲示されており、入居者が居心地良くすごせるような工夫が窺える。日中はぬり絵や洗濯物を畳んだり会話を楽しんだりするなど、入居者一人ひとりが快適で活動的な生活ができるようホーム全体で支援に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あしたば

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「地域の中で普通に暮らし当たり前に自分らしく生きていく」を毎朝全員で唱和し認識を深めながら日々のケアに努めている	ホームでは朝礼の際に理念を唱和し、職員それぞれが支援の方向性についての認識を深めている。職員は入居者の思いに沿ったケアが提供できるよう、一人ひとりの尊厳に配慮した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会等の行事に参加して地域の方との交流を図っている 又、町内の文化祭へも作品を出展している	ホームでは地域の祭りや運動会、季節毎の花見などに参加し、地域の方との交流を図っている。また、地域の保育園や学校からの慰問を受け入れており、入居者と地域が繋がっていけるよう取り組んでいることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習の受け入れや、ボランティアの受け入れ等により理解を深めてもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の中で利用状況や行事報告等細かく報告を行っている 又参加されている方との意見交換を行いサービスの向上に繋げている	定期的に行われる運営推進会議は、家族代表・民生委員・行政(地域包括支援センター)職員・法人代表職員の参加があり、2ユニット合同で開催している。参加者のうち、家族代表・行政の方については1年毎の交代となっている。会議では入居者の状況を伝えとともに、ホーム運営や避難訓練についての報告が行われ、意見交換もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話での質問などを通して積極的に協力関係を構築できるように努めている	ホームでは各種書類の申請や手続き、その他確認事項について、電話での相談だけではなく日頃より直接窓口に出向いて市担当職員へ相談するなど、積極的に連携を図っている。また、運営推進会議においても行政担当者の参加があり、協力関係の構築に努めていることが窺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月法人内での委員会や勉強会を実施しており身体拘束廃止への取り組みを行っている	ホームでは身体拘束廃止に関する委員会を設置しており、毎月支援内容やケアの方向性についての検討会を開催している。職員が内部や外部での研修会に参加しやすいよう勤務シフトの調整も行っており、身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月法人内での委員会や勉強会を実施しており虐待防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ必要性があれば活用し支援出来る様にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、運営規程重要事項についての説明を行い納得いただいている 改定の際の説明と同意をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や意見はその都度記録し他職員へ伝達するようにしている又、意見や要望には適切に対応する様努めている	職員は、入居者本人や家族の意見や要望について直接の対話や電話などで聞き取りを行っている。ホーム内にはご意見箱の設置もあり、聞き取りやご意見箱に投函された情報を申し送り帳へ記載し、職員間で周知を図るとともに適切な対応となるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い職員の意見を出し合い改善が必要であれば対応する様にしている	毎月行われる全体会議や定期的なミーティングで意見交換を行い、そこでの意見や提案をホーム運営に反映させている。管理者は日々の業務の中で職員からの意見を聞き取り、運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回のキャリアシートを使用し評価を行っている面談の際には意見が伝えられる様になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部研修には積極的に参加する様に声掛けを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じて勉強会や交流を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暮らしの情報やアセスメントシートを活用し、本人とのコミュニケーションをとりながら要望や不安等把握する様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談時家族の意向や本人の要望等情報を収集し安心して利用いただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の中で必要としている支援を見極め法人内の他施設との連携を含め対応出来る様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の性格や生活歴を把握し人格を尊重しつつ家庭的な雰囲気の中で信頼感が構築できるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡をこまめに行い要望などを伺っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加により馴染みの方との交流が図れる様にしている	職員は、入居者馴染みの美容室や買い物への付き添いを行っている。また、地域の祭りや運動会への参加、近くの公園へコスモスや桜見物に行くなどの外出支援も行っており、入居者の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら孤立させないような援助を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了しても継続的な関わりや支援が出来る様母体施設と連携して努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に心身の情報収集やアセスメントを行い暮らしの情報を活用し本人の希望や意向の把握に努めている	ホームではアセスメントを行う際に用いる「こころのシート」を活用し、入居者の各担当職員が本人の思いや身体状態を把握するとともに、家族の思いについても同様に努めている。また、「暮らしの情報シート」をもとに本人が希望する生活を把握するほか、職員はそれらの情報をもとに日々の支援に活かすよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族より情報を聞き、生活歴や環境等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に本人や家族から心身の情報アセスメントツールを活用し状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時には本人や家族の意向を尋ね主治医の意見書も参考にしながら作成している	ケアプランは入居者本人・家族の意向や主治医等からの情報をもとに作成されており、職員は個別ケアに取り組んでいる。また、毎月行われる全体会議にて職員全員で話し合いを行い、支援方法の統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアの統一を図っている 気づいた事は職員間で共有し介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者のその時々をのニーズを話し合いの中で柔軟に対応出来る様努力している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したりボランティアや慰問等の受け入れにより日々の暮らしを楽しんでいただける様に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望によりかかりつけ医の継続受診は出来ている	ホームでは、入居前からのかかりつけ医がある方については本人や家族が希望する病院への受診支援を行っている。また、月1回提携医による往診がある。職員は主治医と電話や文書にて情報交換を行っており、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置がないので緊急時は母体の看護師に対応してもらったり、主治医への報告や指示を速やかに行うよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時医療連携室と情報を共有し家族や主治医と相談しながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しグループホームでの対応が困難になった場合は職員間で話し合い共有しながら主治医や家族と話し合いをしながら支援を行うように努めている。	現在ホームでの看取りは行われていないが、入居者の重度化や看取りとなった場合は家族や主治医と話し合いの機会を設けている。本人にとってより良く過ごしていただけるよう特別養護老人ホームや老人保健施設など他事業所での支援を検討し、連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部の研修会に参加しており、実践力は身につけていると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	母体施設と定期的な訓練を行っている。夜間想定避難訓練や消火器の扱い方の訓練も行っている。又、施設ではスプリンクラーや緊急通報装置を設置している	ホームでは母体施設と連携し、昼間や夜間を想定した避難訓練を行っている。また、職員の消火器やAEDの使用方法についての演習も行われており、新人職員に対する災害時の教育が充実していることが窺える。防災計画についても「非常災害対策計画」が策定されており、全職員への周知を図っている。	非常持ち出し袋の中に入居者情報が一冊にまとめているが、入居者の写真が顔写真のみであった。入居者の状態がより伝わりやすくなるよう、例えば全身写真(杖、車いす利用等)の添付や避難先で適切なケアが受けられるよう名札での情報連携を行うなど、今後の取り組みに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損なわないような言葉かけや対応に努めている。	ホームでは接遇マナーの研修を行い、全職員に周知徹底している。職員は大きな声で遠くから呼ばない、名前は名字で呼ぶ、話す時は敬語を使うなど、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーに留意した支援に日々取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの声かけを行いながら、思いや希望を傾聴し自己決定できるような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし強制せず、思い思いに過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族が好む衣類を持って来て、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや嫌いな物を把握しており、それぞれに提供している。準備や後片づけなどもそれぞれできる範囲で協力してもらっている。	献立は入居者の意見を取り入れた季節感が感じられるものとなっており、アレルギーや嗜好に応じた食事の提供がなされている。食器は陶器を使用されており、食事が楽しめるような工夫が窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の献立表を作成し母体施設の管理栄養士の下カロリー計算や確認をしてもらっている。食事量も毎食確認し、少ない場合は補食を行うなど管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人の力に応じて、見守り、声掛け、介助の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員トイレでの排泄を行っている。又なるだけ失敗をなくすようそれぞれの排泄パターンに応じ誘導や声掛けを行っている	職員は入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレへの誘導や尿取りパットの交換などの支援を行っている。居室でポータブルトイレを使用している方については布を掛けて目隠しを行っており、入居者の自尊心に配慮した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録の記載で排便の状態を確認し主治医とも連携しながら下剤調整を行っている。便秘気味の方には飲み物にも工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日を決めて入浴を実施しているが体調や希望に応じ柔軟な対応を行っている	ホームでは、入居者一人ひとりの入浴日を月曜日から土曜日までの間に週2回設けている。入浴拒否や体調不良などがあればいつでも入浴できるよう準備するなど、柔軟な対応がなされている。また、入浴時の湯温への配慮や一人ずつ入浴していただくなど、入居者が安心して心地良く入浴できるよう努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣やその時の状況に応じてそれぞれがゆっくり休息が出来るような対応を行っている又それぞれが希望する時間に居室へ誘導し安心して就寝できる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬の内容は把握している。服薬の際は2人以上で確認を行った後服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中でできる事を手伝ってもらったり色々な活動を提供しながら楽しみが持てるよう支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や地域の行事に参加したりしている。なるべく全員が外出する機会が持てるように計画している	ホームでは季節毎の花見やそうめん流し、地域の祭りや運動会などへの外出支援に取り組まれており、季節を感じながら地域の方との関係が継続できるよう努めている。気候の良い日には職員とともに散歩に出掛けるなど、気分転換が図られていることが窺える。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は家族にお願いしているため本人はお金は所持していないが要望があれば家族と連絡をとりながら買い物が出来る様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎをしたりしている手紙のやり取りもできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下等季節に応じた花を飾ったり装飾したりして居心地のいい空間づくりに努めている	ホーム玄関やリビングのテーブルに飾られた花や大きな窓からの採光によって明るい空間となっており、入居者はリビングに設置されたソファや椅子で自由に過ごすことができる。共用空間の壁面には季節毎の行事や散歩の様子などを収めた写真が掲示されており、入居者が居心地良く過ごせるような工夫が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下等共有スペースに一人でくつろげるような空間づくりをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具など本人の希望や家族の意見を聞き馴染みの物を持って来てもらったりして居心地よく過ごしてもらっている	居室には入居者や家族の希望する寝具や小物、壁飾りや写真などを持ち込むことができる。職員は自宅での生活に少しでも近づけるよう配慮し、安心して居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり安全な移動ができ、自分の居室やトイレ等分かりやすく表示をするなどしている		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 愛

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会理念の浸透と社員同士の理解を深め、人材育成の為に社会理念である「地域の中で普通に暮らしあたりまえに自分らしく生きていく」を朝礼、申し送りの際に職員全員で唱和し利用者様に尊厳あるケアを提供出来る様に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「祭り」や運動会、保育園運動会等の行事へ利用者との交流を図る為参加に努めているが日常的に交流は行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中、高生職場体験学習の受け入れや、ボランティア活動の受け入れなどで認知症の人の理解や支援の方法を体験してもらい理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、事業所の状況報告を行ない構成員からの意見や案等受けた場合事業所内で対応できることは早急に対応し法人対応が必要であれば報告を行なうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出物は出来る限り郵送ではなく出向くなどして事業所の状況を伝え、助言を受けたりできるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、内部・外部研修に参加するなどして身体拘束防止の理解を深めて意識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部外部の研修に参加し事業所内で虐待が見過ごされない様注意し対応困難な問題が発生した時には、話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部研修の中で学ぶ機会を持ち、必要性があれば活用し支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営規程や重要事項の説明を行い家族の同意をいただいている。解約や改定時も同様に説明を行い同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日頃の会話から意見や要望を伺い家族には面会時や電話連絡で意見や要望を伺っており、職員間で共有し、運営推進会議でも報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、職員の意見や提案を出し合って、改善が必要なことに関しては、すぐに対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い、各自が向上心を持って働ける様に環境作りや条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修には、なるべく参加出来る様に配慮し外部研修には、必要と思われる研修及び希望者の研修に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通じての勉強会や交流はしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の相談があった場合は、本人に会い、不安や要望等を聞き、信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の相談があった場合は、本人に会い、不安や要望等を聞き、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を得た中で、まず必要としている支援を見極め、他職種と連携をとりながら可能な限り柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がこれまで築いてきたものを尊重し、学ぶことで支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話や手紙などで、日頃の状態を伝えており、利用者と家族の絆を大切にしながら共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域での行事参加や美容院や買い物等の機会を作り、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係を把握し、食席や居間で過ごす時の場所等、お互いが関われるような支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了した場合でも、継続的な関わりが保てるよう母体施設と連携して努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者との関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。又、「心のシート」を活用し、希望に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から「暮らしのシート」を活用し、生活歴や環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用開始時やその後の面会時に、本人や家族から情報を聞いて、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人や家族に意向を伺い、主治医からの意見も参考にしながら、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアの統一を図り、情報の共有や計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で、本人や家族と相談しながら柔軟な支援が出来る様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、地域の方や馴染みの方と交流を持ったり、慰問やボランティアなど楽しみを持っていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に、入所前のかかりつけ医にも相談し、本人、家族と相談し適切な医療が受けられるよう支援している。月に一度は受診する様にしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、当施設に看護職はいないので、母体施設の看護師の協力を受けられるよう、情報を伝え相談している。また、体調の変動時は主治医へ報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーなど、入院時にはその医療機関へ退所時は受け入れ先へ、情報を共有できるよう支援している。また、連携室・家族とも相談しながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により、グループホームでの対応が困難な状況になるような場合は、家族や医療機関等と相談しながら本人により良く過ごしていただけるよう今後の方針など相談し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を、内部・外部の勉強会に参加し学び、対応出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	法人内で避難訓練を行い、協力体制を取っている。また、災害についても勉強会を行っている。スプリンクラー設備や消火器、警報装置など設置している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄など、個人のプライバシーを損ねないように対応している。言葉遣いや対応など、誇りや人格を尊重し傷つけない様に支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人と関わりを増やし、そのつどコミュニケーションを取りながら、思いや希望、したい事などいつでも話せるように、出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくお部屋に閉じこもりにならない様、声かけは行っている。また、お一人お一人好きな活動に参加してもらい、それぞれのペースで取り組めるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリーム、ブラシ、手鏡など、届く範囲に置いていつでも身だしなみなど整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものは、なるべく代替え品を提供している。お盆拭きや茶わん洗い、配膳・下膳など、出来ることをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士に日々の献立のカロリー計算をしてもらい、栄養が偏らないように確認している。食事量や水分量は記録しており、摂取量が少ない時はその方の好みに応じて提供したり、声掛けを行い摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。声掛けを行い口腔内を確認しながら、介助が必要な方には介助を行い、口腔内を清潔に保てるよう、支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その方に合った声掛けや介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とも相談しながら便秘の予防を行っている。また、運動や水分・食べ物等にも配慮しながら工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて週3回の入浴を行っているが、体調や本人の希望に合わせて柔軟に対応できるように支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況や状態に応じて、ゆっくり過ごせるような対応を行い、夜間も安心して安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬内容を把握し、適切な服薬介助を行う、状態の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族の要望を日々の生活の中に取り入れ楽しく暮らしてもらえるよう、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行事計画を立てて外出したり、希望時に施設内を散歩したりして。また、買い物や地域での行事にも参加して、交流ができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人は、現金を所持しておらず、家族が管理をしている。希望があれば、要望に応じて家族と連絡を取りながら買い物もできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば、家族の協力を得て、手紙や電話のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下に、季節の花や飾り物をして、季節感を感じていただいている。居室にも、家族写真や馴染みの物を飾り、居心地の良い空間作りの工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下等でも、ゆっくり過ごせるような空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や寝具等は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を置いて、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かりやすいように表示したり、バリアフリーの為、安全に移動でき、自立した生活が送れるようにしている。		